

## 栗本慶一氏のプロフィール

高島市朽木在住 栗本林業代表 家業の林業を引き継ぎ4代目 先祖から引き継いだ約100ヘクタールの山をひとりで守る。人工林を皆伐する方法をやめて、拓伐（部分的に間引くような伐採）や天然スギを1本ずつ活用する方法をとる。

先述の「特集私の仕事」では、滋賀県の森林について説明していただきました。くらしの特集は、さらに滋賀県の森林を理解するために、先祖代々、高島市朽木桑原で林業を営んでこられた栗本林業、栗本慶一さんに、地元の森林、林業とくらしについてお聞かせいただきました。

## くらしの特集

# 明日の生活としての林業

まず、地元でやってこられた林業について一般の方に分かりやすく説明していただけたらと思います。

**栗本** 僕は、昭和42年から山の仕事を始めたんです。僕らが林業を始めた頃は、拡大造林と木材の生産が一番盛んな時期で、特に植林を進めていったんです。そのことによってかなり環境には大きな変化があったように思います。今日までの林業というのは、山から採取するばかりで、それを山にあまり返していなかった。だから人工林で返すことだけが山へ返すという意味ではなくて、やはりいろんなかたちで人と山と関わっていかないと、すばらしい環境に反映していかないような気がしますけれど。理想的にいうと、全部スギとかヒノキにしてしまつとだめでしょうか。

**栗本** この地域の広葉樹と針葉樹が混生している森のことを僕ら天然林と呼んでいるんです。

結局、天然林の中から昔の人は「必要なものだけ頂いてくる」。そういう環境を壊さないよくなかたちで、山を自然な形で循環させていく。そうした体系ができたのです。針葉樹、広葉樹が混生してるといのは、たぶん、ほかの動物にもやさしいやろし、住みやすいやろし、森林の環境としては非常にすばしいかたちになつているんじゃないか。やはりその樹齢が違う、樹種がちがう、そういうものが混在してるちゆうことは、森の力としては最高の力を発揮してるんじゃないかなという気はしますね。

前はそれがあつたんですか。

**栗本** あつたんです。今日、僕も反省してみますと、やはり開発をして、一斉に植林するといふそういう作業も、それはひとつの林業のかたちとして、すばらしいんです。しかし、木材の価格も安くなり、山で働く人も少なくなつてきた今日ですね、できるだけ開発を控えて、コス





トのかからない林業。もっともつと自然に依存したかたちで天然林を見直しながら、そういうものを手本として開発し、植林もしないといけない。天然下種更新です。できるだけ、手をかけない、施業を指してですね。たとえばその林道の法面などに天然下種更新で生えた苗を、山へ持っていきますと、そういう苗というのは、林道の法面で育ったものでも苗畑でつくった大きさになるまでに、10年とかそういう年月がかかっています。それだけにやはり、雨季には強いし、しかも、獣害にも、鹿の害とかにも被害に遭いにくいというんです。そういうことも実験的にやってみたらかなり効果もありました。できるだけ自然なかたちのものを、取り入れて、この地域の天然林を見本としてやっていこうという、そういう方針でありますけど。今の林業に比べて、昔はほとんど手入れはしなかったんでしょうか。

栗本 そうですね。手入れしないとありますが、炭焼きが盛んな頃にですね。混成している林の中の、広葉樹だけを炭に焼く。そういうかたちのなかで、下がきれいになっていきます。そうしたところに種が落ちて、さらに天然杉が生え上がっていくという、よりよい方向にひとつひとつが向っていったような感じがします。特に、間伐とか、枝打ちとかいう作業はなかったんですけども。順番に大きいのから切っていくと、下に生えた木がまた日当たりが良くなって、

順番に育っていくという。しかも、小さい木は大きい木に守られて、雪とか風とかの被害にも遭わない。日当たりの少ない分だけ初期の成長がゆっくりしてますので、そのぶんやはり芯から非常に締まったいい木ができる。そうしてよい方向に循環していく気がします。特に特別なことやってきたようではないと思うんですけど。

確かに日本人の生活というのは、天然のものをもってきて上手に家を建てたり、生活に使うという、そのものをそのまま利用するといふようなところがありますものね。それで生活というものをやってきたのだから、そういうものがないと、成立してこなかった。ただ、今からは現代の人に焼き直すのが工夫というのが必要なのがするのです。たとえば、斜面から立ち上がってこう這い上がってるそういう根曲がりの材の45度に立ち上がっているその曲が

りのカーブと木目が非常にすばらしいもので、きましてね、これを生かさない方法はない。まったく人の手をかけずに、雪とか、風に耐えてですね自然の力で、杉の木が立ち上がってきたものは非常にこう自然のものには美しさといいますが、たくましさといふか力強さを感じます。そういったものもこれからこう使っていたら、まったくほかすところはなし、全てが活用できるんで、節の曲がりもですね、生かせるようにがんばっていきなと思ってるんですけど。

地元の山を守り、林業で生計を立てることは、かなり難しいことだと思います。しかし、こういう方々が地元でがんばり、たくさんの方々が活躍できる社会にならないものでしょうか。



美しいアシウスギの木目(栗本林業)



通し柱にするスギの伐採(栗本林業)



製材して梁に使用するスギ材(栗本林業)